

住まいと健康 フォーラムニュース

発行者：住まいと健康フォーラム事務局 第49号
〒351-0197 埼玉県和光市南2-3-6 国立保健医療科学院 建築衛生部 '05.6.8.
Tel 048-458-6248 (鈴木) 048-458-6249 (阪東) FAX 048-458-6253

2005年『住まいと健康フォーラム』

総会及び全国フォーラム開催のお知らせ

日時 2005年7月8日(金)

総会 午後1時30分～2時

全国フォーラム 午後2時～5時

場所 国立保健医療科学院 和光校舎

(旧 国立公衆衛生院：埼玉県和光市南2-3-6)

JR池袋駅から東武東上線・東京メトロ有楽町線利用 「和光市駅」下車

和光市駅南口よりバス利用 約15分

東武バス01系統「税務大学校」下車 徒歩3分

東武バス06、08、09系統「税務大学正門」下車徒歩2分

西武バス39系統「税務大学校和光校舎」下車 徒歩3分

(国立保健医療科学院のホームページに詳しく出ています)

テーマ

「住まいと健康に向けた行政の今後の展望 住まいとアレルギーを切り口として」

今から10年前、設立1周年の全国フォーラムで「住まいとアレルギー」のテーマでシンポジウムを開催しました。この10年でかなりの自治体で「住まいと健康」は保健所の業務の一つとして位置付けられるようになりました。これから「住まいと健康」の問題をどのように展開していくかを、10年前と同じ切り口から考えてみたいと思います。

講師・パネラー(予定)

講演「東京都における住まいと健康への取組の展望」

東京都 福祉保健局 八木 感染症・環境安全担当部長

シンポジウム

「住まいと健康に向けた行政の今後の展望：住まいとアレルギーを切り口として」

パネラー 名古屋市瑞穂保健所 生活環境課 湯浅 典久 氏

熊本市保健所 生活衛生課 米納 久美 氏

コーディネーター 東京都 品川区保健センター 衛生課 國弘 明子 氏

東京都の八木感染症・環境安全担当部長に、東京の取り組みの現況を報告いただくと共に、NPOとの協働や情報発信を精力的に行っている名古屋市の湯浅さん、地元の建築士協会との連携によるアレルギー対策を進めている熊本市の米納さんをお迎えして、今後の保健所、環境衛生監視員の取り組みを考える予定です。

場所が和光校舎になり、若干アクセスは悪くなりましたが、施設はとてもきれいになりました。会員以外の方の参加も結構ですので、ぜひ大勢の方のご参加をお願いいたします。

なお、全国フォーラム終了後、保健医療科学院のレストランで懇親会を行います。こちらにもお集まりください。

国立保健医療科学院和光校舎 研修会 報告

港区みなと保健所 生活衛生課 五味 武人

会員の皆さんでも、白金台校舎にはいやになるほど通っていたが、国立保健医療科学院の和光校舎は知らないと言う方が多いのではないのでしょうか。

平成17年5月13日（金）に、本年の全国フォーラムが開催される、国立保健医療科学院和光校舎において、特別区環境衛生主査会の研修会が開催されました。

以下、国立保健医療科学院 建築衛生部で行われている研究および研修の概要説明、建築衛生部・水道工学部の施設の見学について報告します。

☆池田 建築衛生部長あいさつ

・和光への国立保健医療科学院の移転により、施設がきれいになり、設備も充実したが、やはりアクセスの悪さは否定できない。たださえ、最近の情勢から自治体の研修生派遣が減少している中で、このような研修会はこちらにとっても有益なものとする。これからは科学院の研修に、研修生を多数派遣して欲しい。

・建築衛生という分野は、日本では公衆衛生の中の本流とはいえないが、その分公衆衛生全体が違った方向に向かうことを、修正できる立場であると考えている。保健所における環境衛生の位置付けと似ているようにも思われる。今後とも連携を図っていきたい。

☆建築衛生部の研究概要

柳 建築物衛生室長

・現在の研究としては、「居住環境に基づく感染性疾患とその管理」「医療機関における室内空気質」「SARS関係」「光触媒の利用（シックハウス原因物質の分解、抗菌）」「空調システムにおける微生物汚染」「建築物衛生における健康危機管理」「建築物を対象にした生物化学テロの対策」などに取り組んでいる。

・「居住環境に基づく感染性疾患」では例えばパスツレラ症について、日本はここ10年で10倍以上に増えている。屋内のペットの飼育によるもので、合わせてペットアレルギーの調査もしている。

・「空調システムにおける微生物汚染」ではレジオネラ症だけでなく、カビに由来する過敏性肺炎等も視野に入れている。特に夏場の湿度の高い空気を扱う際の空調機、空調ダクト内の微生物汚染が注目される。

・殺傷力の視点からは、生物・化学兵器が最も安価であるというデータもある。これからは生物化学テロをどのように予防するかを考えることが重要となっていく。

鍵 研究員

・建築物内の化学物質、エアロゾルについて研究を行っている。今日は研究の一つの紹介ということで、厚生科学研究で行ったビル内の化学物質と浮遊粉じんの調査結果を紹介する。

・浮遊粉じんの測定結果の推移を見ると、非常に改善されている。しかし、現在は重量濃度のみで評価が行われているが、微小粒子の問題がある。重量濃度測定からは微小粒子の影響は見えてこないが、微小粒子の呼吸器への影響を考慮に入れると個数濃度による空気室の評価を無視できない。よって個数の計測も行った。

阪東 主任研究官

・障害者の住環境問題、例えば車椅子利用者の暮らしやすい住宅の研究や障害者のための住宅改善をどう評価するかなどの研究をしている。また、ホームレスのいわゆる路上生活者だけでなく、不安定な住居の状況である人の住宅問題を調査・研究している。

鈴木 健康住宅室長

・住まいと健康、高齢者住宅問題を研究している。一つの例として、高齢者の浴室での死亡事故について紹介したい。統計で見ると、高齢者の浴槽での溺死数は3千人ほどだが、病死として扱われたと考えられるものも含めた入浴中の急死は1万4千人と推計される。

・浴室での急死は寒い浴室、熱い風呂という組み合わせが大きな原因であり、いわゆる住宅内が寒い地域(富山、新潟、福井等)が死亡率の上位である。

☆施設見学

・水道工学部

浄水場をそのまま小さくしたプラントが作られており、オゾン・活性炭利用の高度浄水処理の設備、膜処理設備を見学した。各設備は配管連結され、さまざまなパターンによる水質変化の研究ができるようになっている。

その他水撃限界性能、耐寒性能、耐久性能、負圧破壊性能等の試験装置を見学した。科学院で給水器具等の性能評価を行うわけではないが、厚生労働省の依頼で市販品の性能検査を行い不適なものは厚生労働省のホームページに掲載している。

・建築衛生部

VOC等の測定を行う測定室、抗菌効果の実証実験、床吹出しを含むさまざまなSA口やRA口が設置された実験室、クリーンルーム等を見学した。空調の実験室は系統がパソコン上で図示され、系統を変更して実験ができるようになっている。

バリアフリーの設備が設けられた、実際の住宅の一部を再現した実験室を見学した。手すりや流しの高さが調節できる設備、入浴介助設備などが実際に体験できるように設置されていた。

☆国立保健医療科学院の研修について

- ・最近では自治体からの研修参加者が全体的に減少している。
- ・環境衛生監視員の一般的コースとしては、年毎に「住まいと健康コース」と「建築物衛生コース」のどちらかを設定している。期間は4週間で30名定員であるが、今年も定員に余裕はある。来年以降、ぜひ大勢参加してほしい。

2005年札幌フォーラム (公衆衛生学会自由集会) について

今年の全国公衆衛生学会の自由集会は、住まいと健康フォーラムで、札幌フォーラムとして開催いたします。

日程は2005年9月14日(水)もしくは15日(木)の予定です。

日程と場所が確定しだい、お知らせいたします。

北海道で住まいと健康を語りあいたいと思います。

2次会もお楽しみに！

事務局だより

住まいと健康フォーラムでは、会費収入の減少、支援ボランティアの多忙化などの課題があり、来年度からの運営を見直し、新しい運営方法に変更を計画しています。詳しくは別途お知らせする予定ですが、概要としては

- ・会費の徴収をやめます
会費管理事務を簡素化します
- ・情報発信は基本的にホームページで行います
郵送によるニュースの発送事務を低減します
- ・メールによる情報交換のシステムをつくります
- ・グループ活動補助を停止します

など、基本的にホームページ中心の活動への転換を考えています。

会員の皆さんには、ご迷惑をおかけしますが、ご承諾をお願いいたします。

なお、現在までの会費の繰越を運営費として活用していく予定です。

会員の皆さんのご理解をよろしくお願いいたします。

事務局 (和光校舎に移転しました)

〒351-0197 埼玉県和光市南2-3-6

国立保健医療科学院 建築衛生部 健康住宅室 鈴木 晃 ・ 阪東美智子

TEL 048-458-6248 (鈴木) FAX 048-458-6253

事務局不在のときが多いので、ご連絡はFAXでお願いします。